

18 歳から 50 歳の成人の脳卒中後の長期的致死率は高い

18 歳から 50 歳の成人における初回脳卒中後の長期的致死率についてのデータは少なく、また、たいていは脳虚血発作だけを対象にしていた。

そこで、本研究では、18 歳から 50 歳の成人についての初回脳卒中後の長期的致死率と死因について検討した。過去に初めて一過性脳虚血発作(TIA)をおこした患者 262 人、虚血性心臓発作をおこした患者 606 人、脳内出血をおこした患者 91 人の計 959 人の生存状態を評価した。平均追跡期間は 11.1 年であった。

結果として、追跡期間終了時には 192 人 (20.0%) が死亡した。発作後 30 日生存者のうち、20 年間の死亡のリスクは一過性脳虚血発作で 24.9%、虚血性心臓発作で 26.8%、脳内出血で 13.7%であった。虚血性心臓発作においては、発作後 30 日生存者のうち、20 年間の死亡リスクは男性の方が女性より高かった (33.7%対 19.8%)。

18 歳から 50 歳の成人では、急性の脳卒中後の致命率は予想したより高かった。この結果は、脳卒中後の二次予防をどのようにするかの研究が重要であることを示している。

(出 典 : Journal of American Medical Association. 2013 Mar 20;309:1136-1144)